

ヤダ! ヤダー!!



かんしゃく



何を言っても
きかない...
どうしたらいいの?

まず、その場では...

- 1 危険がない場合は、少し離れて落ち着くまで静かに見守る
- 2 投げたり暴れたりしたときに危険となるものは片付ける

やってみよう!

観察し、原因をさぐる



前後の状況や子どもの様子を手がかりに、子どもの気持ちに寄り添って原因を考えます。そして、その原因を取り除いたり、環境を整えたり、伝え方を工夫したりという対応を考え、次からは予防するようにしましょう。

こだわりは認める

原因がこだわりの場合、ある程度のこだわりは受け入れることも必要かもしれません。予定外のことにとても不安を感じる子の場合、力づくでそのこだわりをやめさせたり、中断させたりしないようにします。

不快な刺激を取り除く

思いがけないような音や感触、においなどが、かんしゃくの原因になることがあります。原因を取り除くことができない場合は、不快な感覚があったら、大人に伝えるよう教え、その場から避難できるようにします。

次にすることを具体的に示す

活動と活動の間の時間にかんしゃくを起すことが多い場合、次にすることやいつまで待つのか等の見通しを、言葉での指示だけでなく絵カードを見せるなど視覚的に分かりやすく具体的に示しましょう。



NG!

その場ですぐに説得しようとする、なだめる

興奮しているところに言葉でなだめても、本人の耳には入りません。それどころか、ますます混乱してしまう場合もあります。本人が落ち着くまで、そばでゆったりと構えましょう。

大きな声でしかる

気持ちが高ぶっているときに、大きな声でしかりつけても、黙るどころか興奮をさらに強めてしまいます。また、言われている言葉の意味が分からない子もいます。

かんしゃくに折れて、子どもの要求に応じる

かんしゃくに折れて子どもの要求に応じると、「泣き続ければ自分の思いが通る」と学習します。一貫性を持って関わりましょう。

